

2021.1.18

Report from AKATSUKA PARK

赤塚公園武蔵野台地崖線植物モニタリング活動

2月の活動予定 2/1、2/8、2/15 9:00 ため池公園梅林下スタート 誰でも歓迎!

冬来たいなば春遠からじ

「苦しいことがあっても、きっと必ず良いことがやってくるものだ。だから辛抱して頑張ろう」という人生訓なのですが、19世紀初頭に活躍したイギリスの詩人・シェリーが書いたものを明治時代の人々が翻訳し文語体で言い伝えられてきているので、この言葉を理解できる人はもう少なくなっているかもしれません。もちろん、この言葉のもとになったのは自然の季節ごとの移りかわり。



←1/11 朝 9:00 気温は 0.0℃。ため池は70%が氷結していました。

落葉樹の林の中も殺風景です。でも、敷き詰められた落ち葉の絨毯の下には春を待つ野草が芽生え始めています↓



咲いている花が少ない真冬の植物観察は「おもしろくない」と思いがちです。しかし、見るべきものはたくさんあります。

赤塚城址の板橋区立郷土資料館の裏、遊歩道際の**アオキ**の実（左）は他の場所より早く美しく赤く色づいています。



目線を上げると、梢から垂れ下がっているのは**カラスウリ**の実（右）。





ため池公園のウメ（左）はもう4、5本が開花。

城址の上の赤塚五丁目森の広場のビワ（右）はこの前は花盛りだったのが、もう実を付けています。



梢を見上げると、コゲラ（上）が木をつついていました。

旧沖田家の前の植え込みからすくっと背を伸ばした枯れ姿の草の穂綿はよく見ると泡が立っているよう。なるほど、背丈が高くて泡立っているから「背高泡立草」=セイタカアワダチソウ（右）なのだ。



葉は霜枯れしそう でも 花が咲いている



左の写真は今では年がら年中咲いているノゲシですが、上のほうの葉は霜が当たって赤く萎えています。しかし、その葉の下の花は瑞々しく緑も保ったままです。上空から降りてくる冷たい空気が直接触れるところでは霜枯れが起きるけれど、下の方は昼間の日の光で温められた空気がたまっているので花も葉も霜枯れしないのです。

冬の晴れた日の朝、地表の暖かい空気が上空からの冷たい空気と入れ替わって地表が冷える現象を「放射冷却」といいます。草は放射冷却が地面にまで及ぶのを防いでいるわけです。

赤塚公園友の会参加団体の活動予定

- いたばし水と緑の会（赤塚城址ばった広場、とんぼ池の管理）1/23 10:00 赤塚トンボ池前
- みどりの手（赤塚城址などで林の手入れ活動）定例活動 1/24 10:00 ため池公園梅林下
- ニリンソウ自生地保護活動（大門ニリンソウ自生地などの手入れ）2/14 10:00 大門観察台前
- NPO 法人いた・エコ・ネット（中央地区でコットン＝綿の栽培）

問合せ先:赤塚公園サービスセンターへ 電話:03-3938-5715